

① 近江哲史 著

『図書館力をつけよう』

(日外アソシエーツ)

著者の言う「図書館力」とは、利用者が図書館を使いこなす力です。これを初級、中級、上級の三つにランク付けして話を進めています。ただし利用方法を細かく解説した物ではないので、気軽に読むことが出来ます。本書で扱うのは公共図書館が中心となっていますが、大学図書館にも共通する点は多いので参考になると思います。また、司書課程を履修している方にもおススメします。図書館をあまり使った事がない人は、本書を手にして初級の仲間入りをしませんか？

015-Omi (T.F.)

③ 本山賢司 著

『「図解」さかな料理指南』

(新潮社)

筆者の自論によるとさかな料理とは、簡単、手軽がおいしいの秘訣、そして難しくかまえないでまずはやってみるべしということだそうです。この本ではさかな料理に必要な魚の目利きの方法から、さばき方、焼き方、煮方、味付けのコツまでを豊富なイラスト図解をまじえてわかりやすく書かれています。従って読み進んでいくうちにさかな料理の勘所をしっかりと会得できます。

素材の魚も食卓にのぼるサンマ、イワシをはじめ、旬の魚やその土地の魚などさまざまです。

596.3-Mot (S.S.)



② コロナ・ブックス編集部 編

『京の色事典330』

(平凡社)

京の色といえばやはり源氏物語にでてくる「紫の上」から紫色を想像してしまうのは私だけでしょうか。

本書によると、紫色は紫草の根によって染める色で、古くから色の代表として扱われており、染料が得難い上に、染め方も極めて難しく、濃く染めるほど非常に高価なものであったそうです。さらに同じ紫色でも赤みがかったものを「京紫」、青みがかったものを「江戸紫」と呼ぶそうです。

本書に載っている微妙な風合いの和の色で、カラーコーディネートを楽しみましょう。

757.3-Kyon (N.K.)

④ 木村鉄太 著

『航米記』

(青潮社)

本書は、幕末の万延元年(1860)に外交使節団の一員としてアメリカへ渡った後、アフリカ南端の喜望峰、バタビア、香港経由で世界一周した肥後藩士木村鉄太の日記です。乗船した軍艦の構造、サンフランシスコで咸臨丸の勝海舟達と出会ったこと、アメリカの地理・歴史・選挙制度、生活習慣の違い、ワシントンやニューヨークで受けた大歓迎振り、アフリカやアジアの珍しい風物など詳しく書かれています。

現代語に翻訳されているので読みやすい上に、外国の風景、建物、珍しい動植物などのスケッチも見事で、是非ともお薦めしたい本です。

210.593-Kim (F.O.)